

霧ヶ峰高原林野火災の植生等への影響について

令和 6(2024)年 2 月 29 日 環境保全研究所

1 林野火災とそれによる焼失範囲の植生等の概要

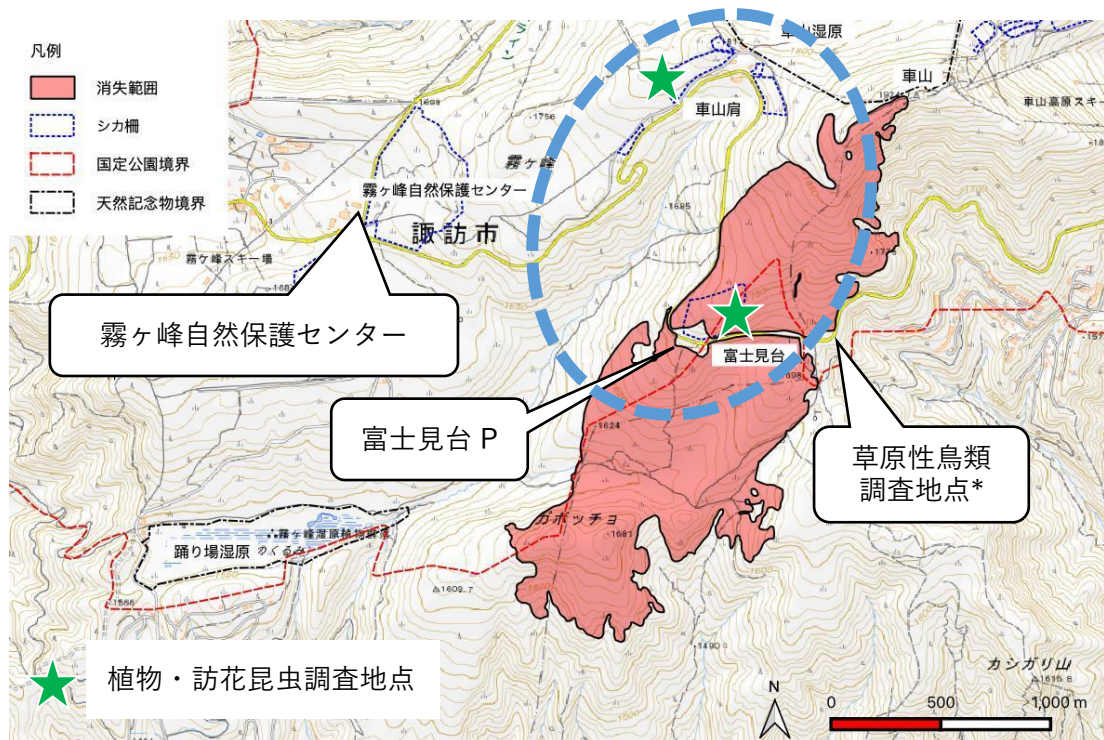
- ・ 2023 年 5 月 4 日に林野火災が発生、約 166ha が焼失
- ・ ススキ、ササが優占し、レンゲツツジやニッコウキスゲ等が開花する二次草原で、草原性の昆虫・鳥類・ニホンジカ等が生息・繁殖
- ・ 火災発生時には、ニッコウキスゲを含む多くの草本植物は展葉前で、鎮火後に展葉・成長

2 火災の影響調査にあたり考慮した観点

- ・ 霧ヶ峰の二次草原は、草原性の植物や昆虫、鳥類の重要な生息地
- ・ 2013 年にも火入れ延焼（約 220ha 焼失）、一部は今回の焼失範囲に重なる。
- ・ 近年はニホンジカが増加、2013 年の延焼時には翌 2014 年の春にニホンジカの増加が見られた。

3 影響調査の内容

植 物	植生の回復状況	・ 衛星画像を利用し植被回復を経過観察
	草原植物の生育状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼失範囲の内（富士見台の防鹿柵周辺）と焼失範囲の外（車山肩）の防鹿柵周辺に植生調査区（50m×3m）を設定 ・ レンゲツツジ、ニッコウキスゲ等の草原植物の焼損状況、開花状況等を現地調査及びドローン空撮（6, 8 月）
動 物	訪花昆虫の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼失範囲の内（富士見台の防鹿柵周辺）と焼失範囲の外（車山肩）の防鹿柵周辺の植生調査区（50m×3m）で、花を訪れたチョウとマルハナバチの種数を記録（8 月）
	草原性鳥類の生息状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼失履歴の異なるサイト（①火災なし/②2023 火災/③2013・2023 火災/④2018 まで火入れ継続）で生息状況を定点観察（5-7 月）
	ニホンジカの分布動向 ・ ライトセンサス ・ 出没個体調査 ・ 生息密度調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日没後の草原に道路からライトを照射、夜間に出没するニホンジカの個体数や性別を記録（5, 6, 10, 11 月） ・ 赤外線センサーカメラにより、出没するニホンジカの個体構成や頻度を記録（6-10 月） ・ 1m 四方の枠内に存在するシカ糞の数を 101 地点分調査、糞数や糞消失率を記録（6, 8, 10 月）



*: 草原性鳥類調査は、茅野市柏原地区でも実施

4 結果概要

【植物】

- 火災による裸地は生じず、火災後に植被（植物が生えて地面をおおっていること）は回復した。
- 回復した植生のタイプ（植物群落）はススキ草原、ササ草原で焼失前と同様
- 草原植物の焼損状況は、レンゲツツジでは開花が見られなかったなど、木本植物の焼損が顕著

【動物】

訪花昆虫

- 訪花を確認した草原性チョウ類の種数は、防鹿柵の内外で差がなかった。
- 訪花を確認したマルハナバチの種数は、火災地の防鹿柵内で多く見られた。

鳥類

- 草原性鳥類4種（ノビタキ、ホオアカ、ヒバリ、コヨシキリ）の確認状況に有意な差は見られなかった。
- 霧ヶ峰では、定期的に管理をしている草原で多く確認されるコヨシキリが、2018年まで毎年火入れをしていた草原でのみ確認された。
- 2013年の延焼、2023年の林野火災の2回の火災では草原性鳥類の種の組成に影響は見られなかった。

ニホンジカ

- 植生回復後の火災地では、ススキ等のイネ科の採餌が確認された。
- 火災地には直後からシカの出没があったが、前回の山林火災時と同様に初夏（5,6月）の出没数は前年度と大きな違いはなかった。
- 秋季の出没数は、前回の山林火災時と同様に、前年度と比べ少なくなる傾向にあった。